

現代インドにおけるダリト企業家による社会・経済関係再編成

－媒介者としての DICCI の活動に注目しながら－

平成 27 年入学
派遣先国：インド
久保田 和之

キーワード：ダリト、企業家、DICCI、カースト、留保政策、銀行、ロビー活動

・対象とする問題の概要

インドにおいては古来よりカースト制度に基づく職能分担体制が成立し、商業は主にヴァイシャと言われる商業カーストが担った一方で、カースト制度の枠外におかれたダリトの人々は主に清掃業、皮革業、屠殺業などに従事し、公共の井戸の使用を認められず、ヒन्दゥ教寺院に入ることを禁止されるなど、社会的に差別されてきた。しかし今日ダリトの人々の中で、起業しビジネスを行うものが登場し、2005 年にはダリト商工会議所(Dalit Indian Chamber of Commerce Industry、以下 DICCI)が設立され、2010 年にはプネーでエキスポが開催されるに至った。

考察したいのはダリトの企業家はどのような人々で、どのような活動を行い、そして彼らの商工会議所である DICCI はどのような役割を果たしているのかという事である。またインドでは 1980 年代以降経済自由化が行われ、グローバル化が進んでいる。また植民地時代よりダリトの人々等に対する、大学入学者及び公務員職における留保枠の確保といった留保政策が行われてきた。ダリトの企業家とこれらの政策がどのような関係にあるのかも考察したい。

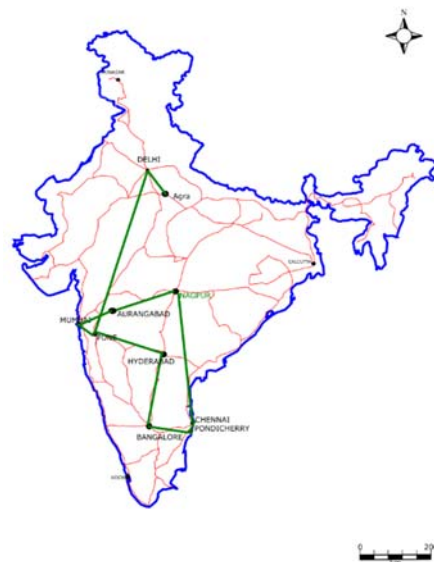
・研究目的

上述のように、ダリトの企業家及び DICCI の役割を明らかにすることが主な研究目的である。企業家研究においては従来企業家のパーソナリティに注目するものが主だったが、今日は起業という行為を社会的現象として捉える研究が主流になりつつある。本研究はそれらに対し一定の示唆を与えるものになるであろう。また企業家及び企業家の組織を分析概念に持ち込むことで、市場と政府だけでなく、企業家及びその組織同士のネットワーク、宗教コミュニティ、インド国内はもとより海外まで視野に入れたサプライチェーンを考察に盛り込むことが出来るようになり、究極的には資本主義論、現代インド経済研究、カースト研究、貧困研究、エンパワーメント研究らに対し示唆を与えるものになるであろう。

・フィールドから得られた知見

本調査は 2015 年 8 月 1 日から 10 月 5 日までの期間で行った。調査地はデリー、アグラ、プネー、ムンバイ、アウランガバード、ナグプール、チェンナイ、ポンディシェリ、バンガロール、ハイデラバ

ードである。上記の都市で企業家及び DICCI 関係者へインタビューするとともに、DICCI の定例会議に参加し調査を行った。



調査都市地図

調査から分かった主な事は以下である。

まず職種であるが、伝統的に皮革業に従事していたチャマルカーストの人物が、起業し工場を作り海外に革靴製品を輸出するなど、伝統的に従事していた職業を発展させる形でビジネスを行うケース、3D 建設デザインにおいて非ダリトの人物と共に起業し多様なカーストの従業員を抱える企業や、建設業・リゾートホテル事業・エビの養殖及び輸出等を多角的に手掛ける企業など多岐にわたった。

ダリトの人々が起業する際に直面する困難として、初期資金の調達があげられる。企業家の語りによれば、担保を用意することが困難であり、またダリトであると分かった時点で銀行から融資を断れることが多いとの事であった。銀行員からのインタビューにおいても、融資においてカーストを考慮する担当者の存在や、地方の銀行の案件においてはダリトの人には融資を行わないといった事例があることを確認した。しかし、企業家の中には起業する以前に積んだキャリア及びスキルのため銀行から融資を容易に受けた者や DICCI を通じて知り合った企業家から出資を受けた者や、ベンチャーキャピタルファンドからの融資を申請している者もおり様々な方法を駆使していた。

また企業家の両親が教師や政府の職業に従事しているものが多く、留保政策によって経済的に上昇し、自身が大学に進学し起業に至るというケースが想定されうる。

次に DICCI の役割であるが、主に企業家の支援を行い、企業家と企業家及び既存の組織、制度と結びつける媒介者としての役割及び一つの団体として政府へのロビー活動を行っていた。今回確認できた活動として、エキスポ開催、定例会議開催、企業家育成支援セミナー開催、企業家を他企業のマネージャに紹介する事、企業家に融資を受けやすくなるよう既存の制度を紹介する事、起業の段において必要な設備の購入を支援する事、テラガナ政府及びマハラシュトラ政府へのロビー活動が挙げられる。



ハイデラバードで開催された DICCI
南インド会議にて。各支部長が活動報告を
行っていた。2015 年 8 月 12 日。



アグラ郊外でダリトの企業家が経営する
革靴工場にて。流れ作業で革靴が製造
されていた。2015 年 10 月 19 日。

・今後の展開 反省点

今回の反省点は以下の 3 点である。まず調査方法がインタビューのみであったこと。今後は何らかの形でダリト企業家のビジネスに実際に関わることで調査を行いたいと思う。次に政府や政党の調査を行えなかったことである。ダリト企業家及び DICCI は政府へロビー活動を行っており、特定の政党とも関係がある可能性が存在するため今後調査を行いたい。次に他のビジネス組織の調査を行えなかったことである。商売は決してダリトの企業家の中で完結するものではなく、DICCI はタタグループやインド産業連合といった他の組織から支援を受けており、これらの集団を今後調査する必要があるだろう。



DICCI プネーオフィスにて。2015 年 8 月 6 日。